

令和6年度
「家庭教育支援推進のための調査研究（家庭教育
育についての 保護者へのアンケート調査）」
事業報告

株式会社リディラバ



家庭教育の総合的推進に関する調査研究 (民間による家庭教育支援調査事業)

令和4年度
株式会社Ridilover

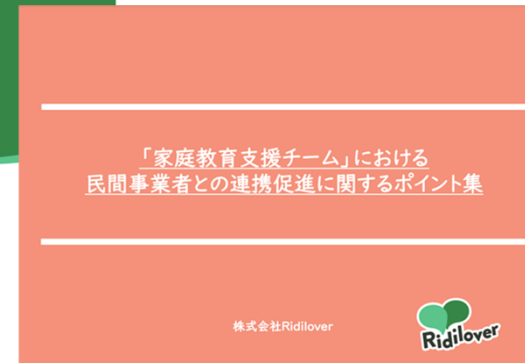


令和4年度

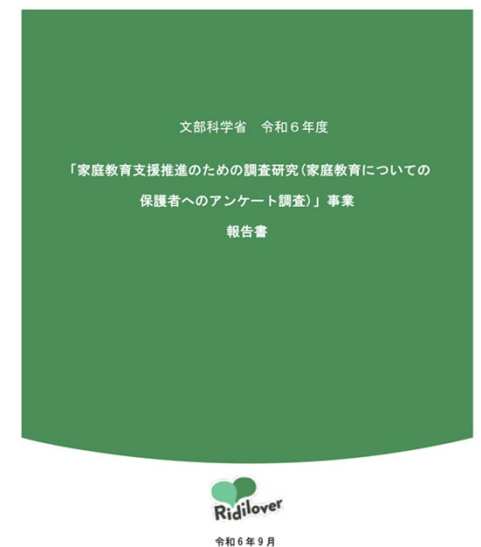


令和6年3月

令和5年度



株式会社Ridilover



令和6年9月

令和6年度

調査概要

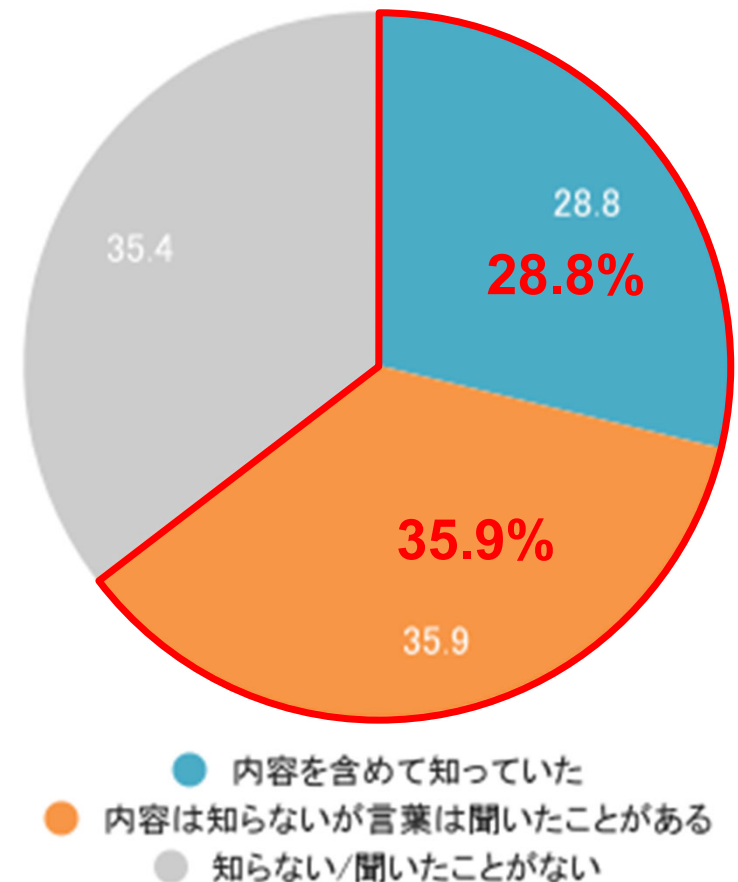
調査実施期間	2024 年 7 月 26 日(金)～2024 年 7 月 31 日(水)
調査対象数	3000ss - 子育て中で同居中の子供がいる : 703ss - 今後子育てを予定している : 36ss - 過去に子育て経験がある : 732ss - 子育て経験はない : 1,529ss
調査方法	オンラインアンケート
質問数	全20問 - 「家庭教育」についての認知状況 - 「家庭教育支援」関連施策についての認知状況 - 「家庭教育支援」の活用の実態 - 「家庭教育」に関する悩みや支援のニーズについて

調查結果

「家庭教育」の認知度

※回答者全員を対象としている(n=3000)

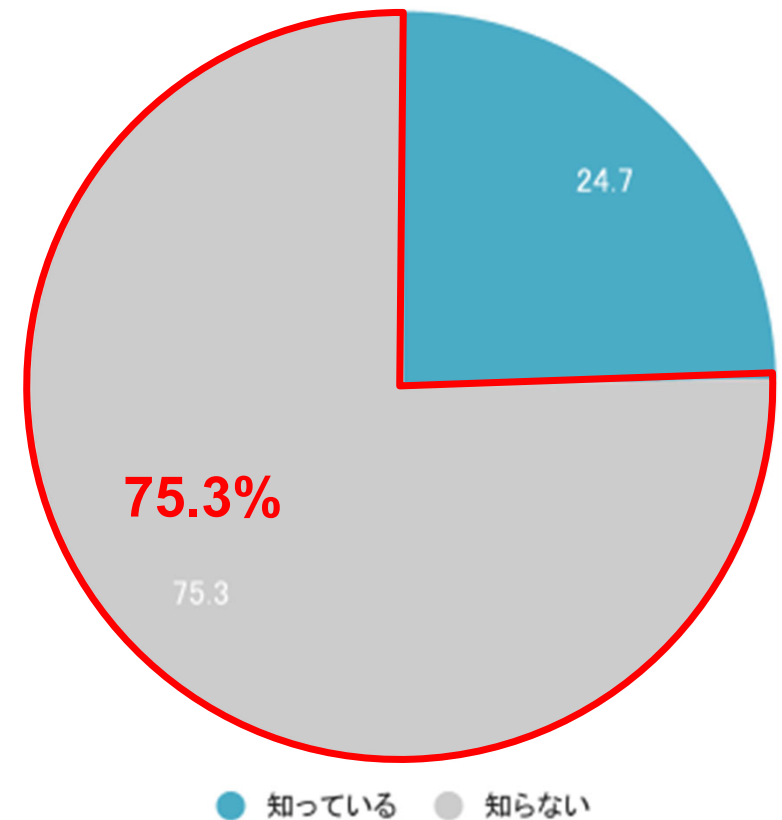
- 「家庭教育」という言葉を「内容を含めて知っていた」と答えた回答者は約30%
- 回答者の約70%は「言葉は聞いたことがある」、もしくは「全く知らない」
- 子育て中の家庭のみを抽出した場合でも同様の傾向だった



教育基本法での規定についての認知度

※ 家庭教育について「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている(n=1939)

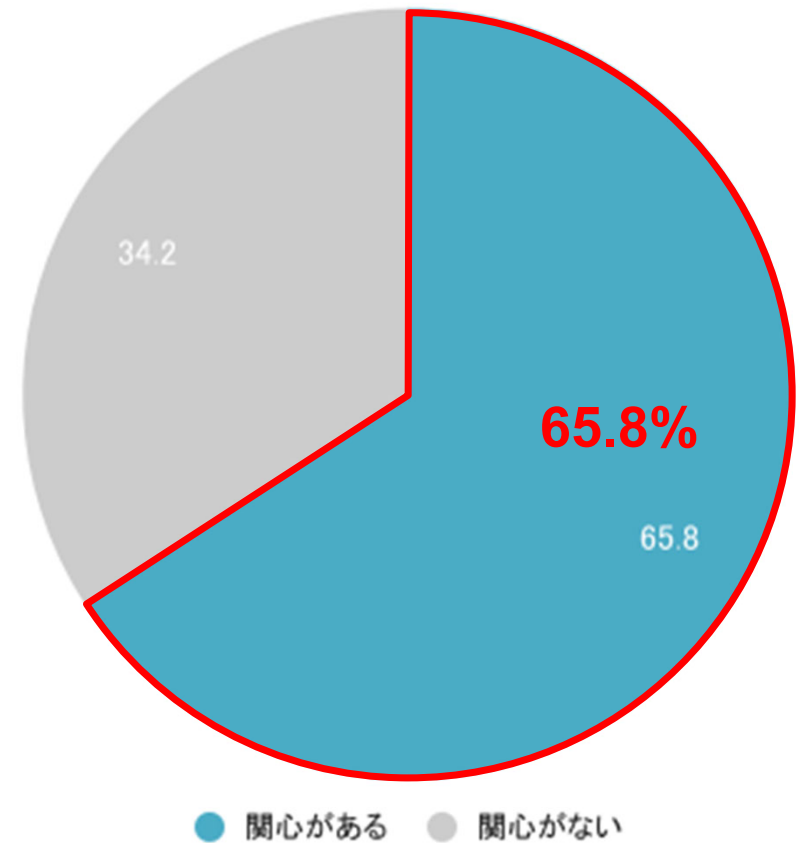
- 回答者の70%以上が「行政が家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とされていることは認知していない



家庭教育支援に対する関心の有無

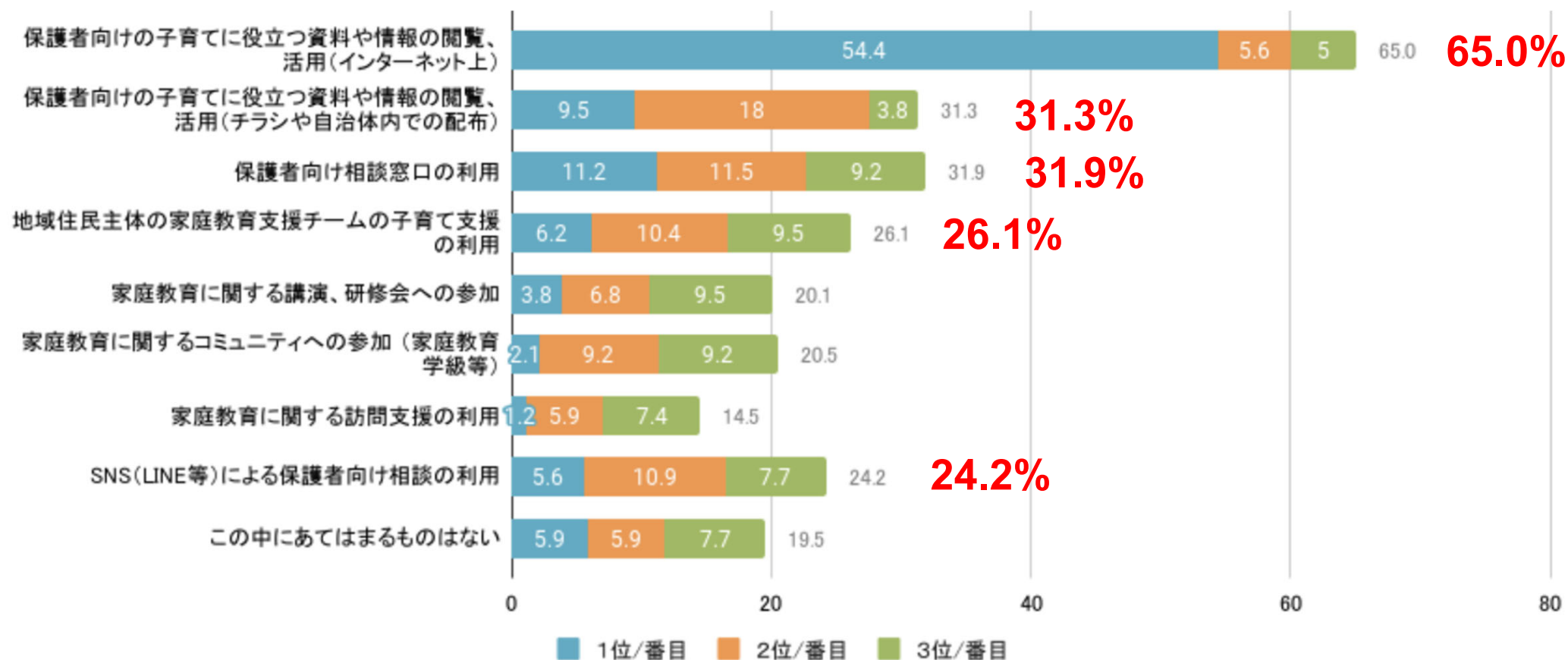
※ 現在子育て中、または子育てを行う予定がある回答者のうち、家庭教育について「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている（n=514）

- 回答者の約65%が「家庭教育支援を受けることに関心がある」と回答
- 子供の年齢が低いほど支援に対する関心が高い



関心のある「家庭教育」支援内容と優先順位

※家庭教育支援を受けることに「関心がある」を選択したものを対象にしている(n=338)

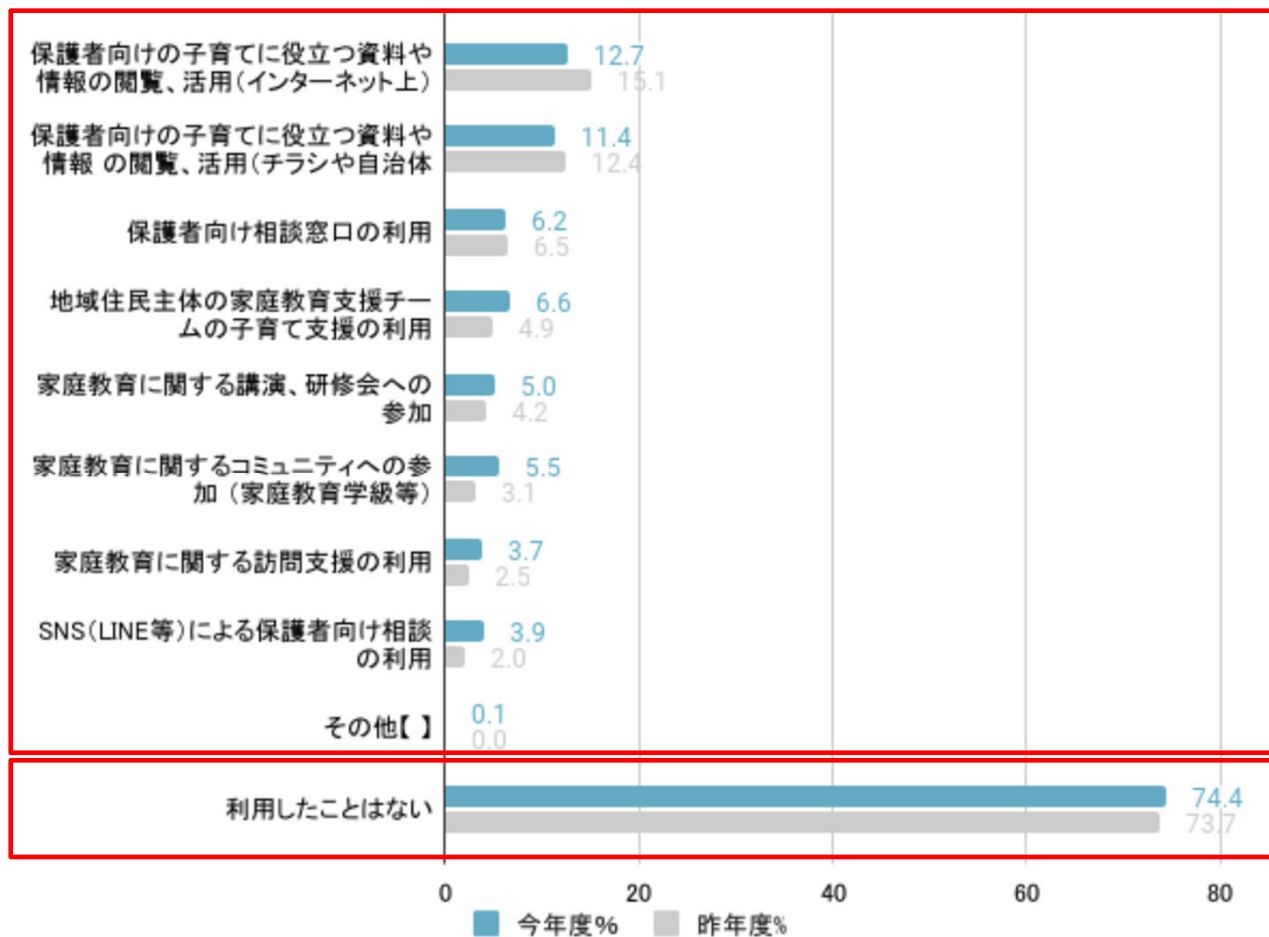


「家庭教育」支援の利用歴

※ 現在子育て中、または子育てを行う予定がある回答者を対象としている（n=739）

利用したことがある
25.6%

利用したことはない
74.4%



利用した「家庭教育」支援の満足度とその理由

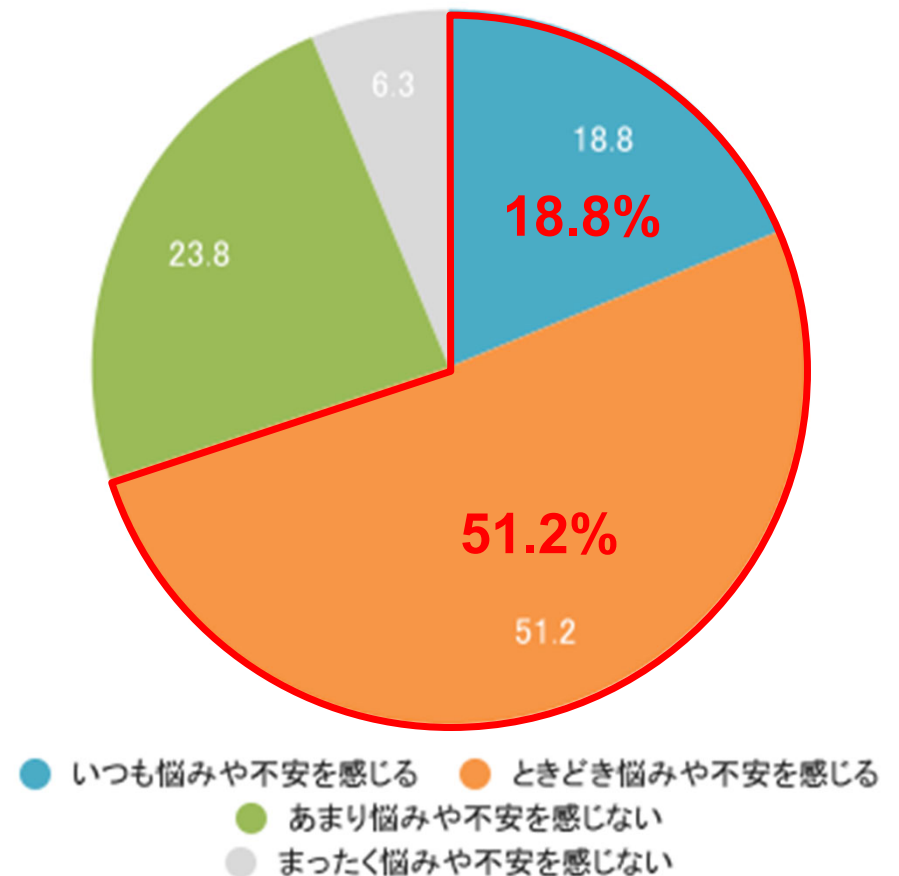
※家庭教育支援を利用したことがある回答者を対象としている(n=189)

保護者向けの子育てに役立つ資料や情報の閲覧、活用(インターネット、チラシ)	+ 簡単にアクセスできたから + 実際に取り組やすいから - 行政的な堅い文章 - 載っている情報に不足がある
保護者向け相談窓口の利用	+ 親身になって相談を受けてくれる - 相談時間が短すぎる - やや待たされる - 土日等も窓口を開けてほしい
家庭教育支援チームの支援の利用	+ 子供同士ができるものがよかった + 定期的開催されている - 支援の幅が狭いと感じる
家庭教育に関するコミュニティへの参加(家庭教育学級等)	+ 他のママさん達と悩みや対策を共有できた - イベントが少ない

子育ての悩みや不安の程度

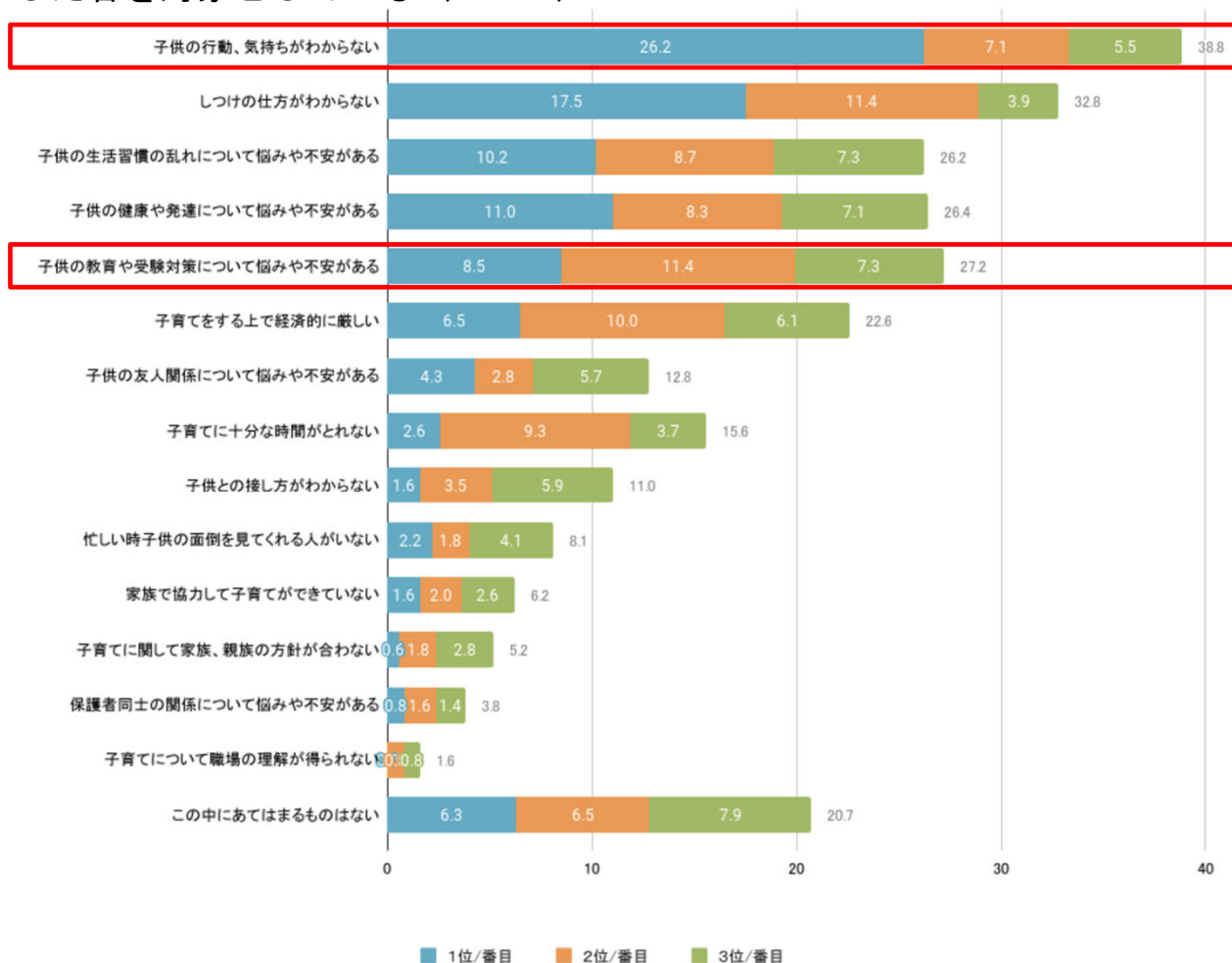
※ 現在子育て中の回答者を対象としている（n=703）

- 子育て中の回答者の20%が「いつも不安や悩みを感じている」と回答
- 50%が「ときどき悩みや不安を感じている」と回答
- 末子の年齢が中学生までの子供を持つ回答者の70～80%が「いつも」または「ときどき」悩みや不安を感じている



不安や悩みの内容と優先順位

※ 子育て中の悩みや不安の程度について、「いつも」または「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象としている（n=492）



子供の行動、気持ちがわからない
38.8%

子供の教育や受験対策に悩みや不安
27.2%

- 3歳から小学生未満の末子を持つ家庭でもこうした悩みを抱える家庭が一定数存在

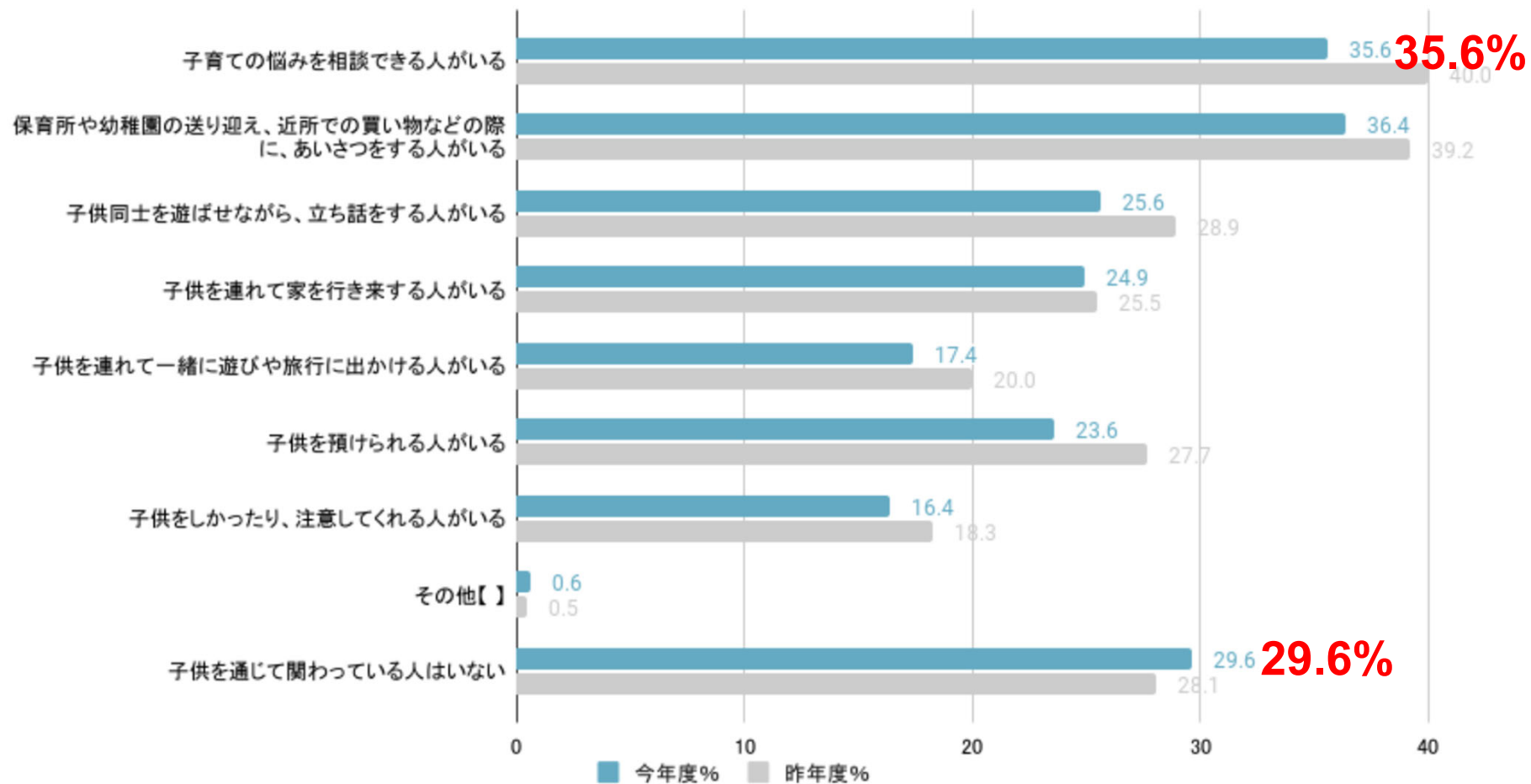
不安や悩みの内容と解消方法

※ 子育て中の悩みや不安の程度について、「いつも」または「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象としている（n=492）

- 子供のしつけに関する問題では、家族内、特に親とのコミュニケーションや経験に頼る傾向
- 子供の健康や発達、友人関係に関する問題については、学校や教師、地域の支援団体や自治体のサービスに相談する傾向が強い
- 「家族で協力して子育てができていない」「経済的な不安がある」といった家庭内のセンシティブな問題については、特に解消策を講じていなかったり、たとえ講じていたとしてもインターネットや書籍を参考にするなど、自分たちで解決しようとする傾向が高い

「子どもを通じた付き合い」の状況

※ 現在子育て中の回答者を対象としている（n=703）



個別の支援が必要な家庭

Q. 現在子育てをしていて、不安や悩みを
どの程度感じていますか？

- いつも不安や悩みを感じる
- ときどき不安や悩みを感じる

かつ

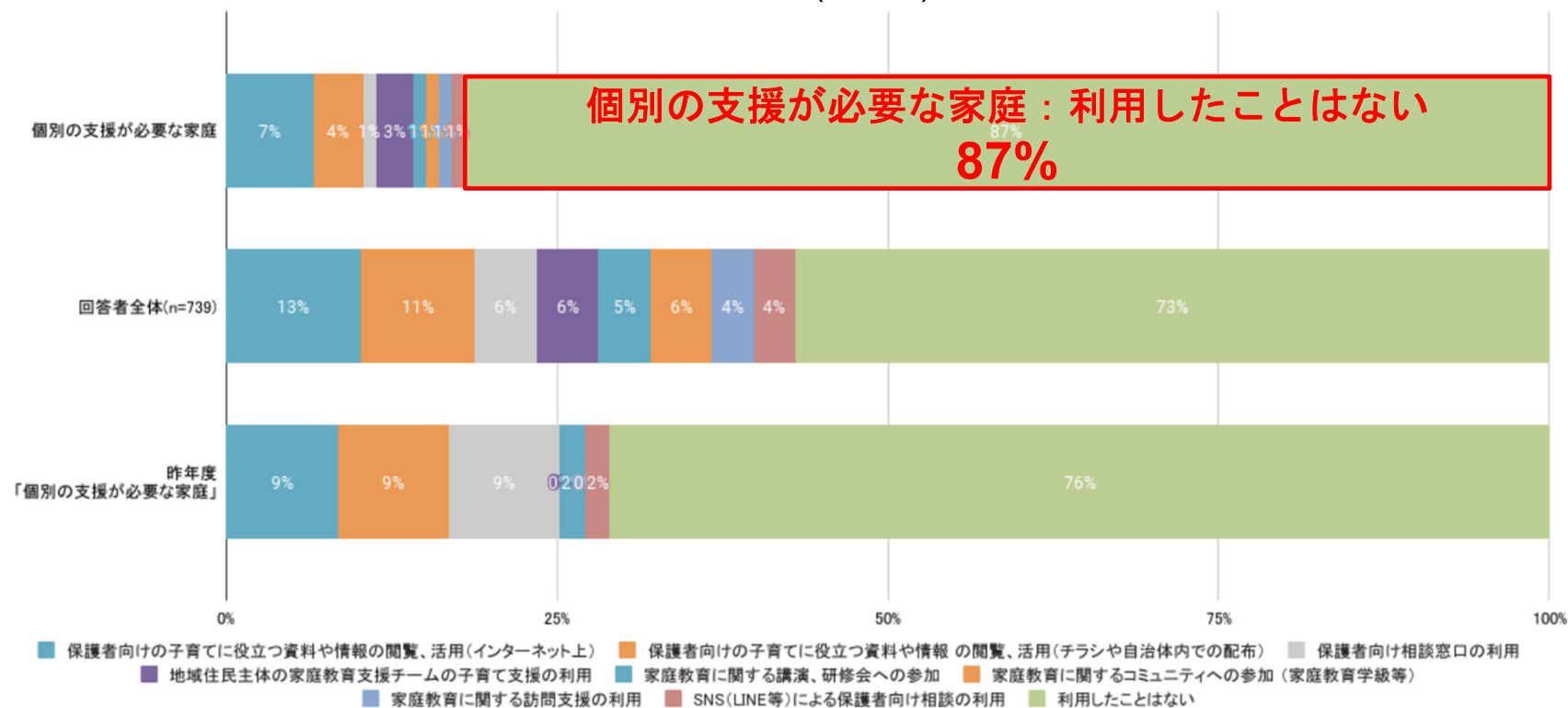
Q. 地域内における『子どもを通じた付き合い』について教えてください。

- 子供を通じて関わっている人はいない

「個別の支援が必要な家庭」の約90%は家庭教育支援支援を利用したことはない

「家庭教育」支援の利用歴

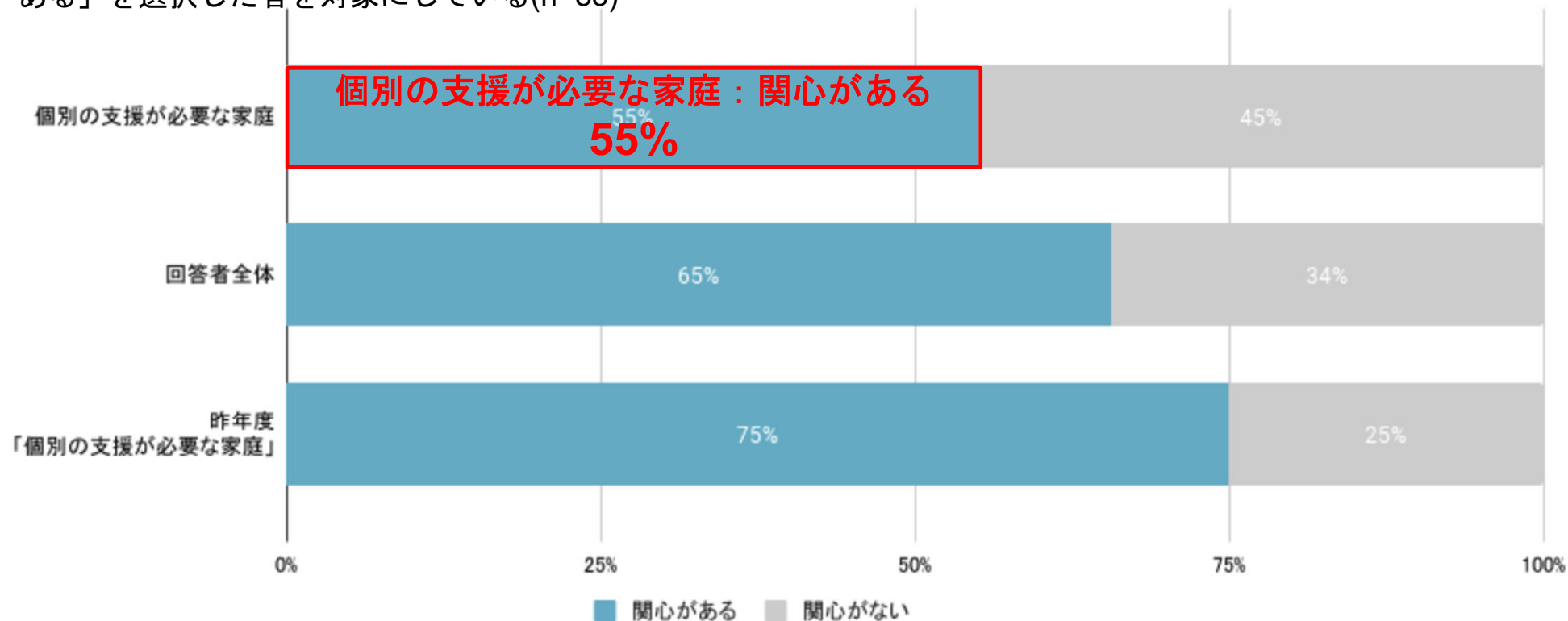
※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)



「個別の支援が必要な家庭」は家庭教育支援を受けることに対する関心は約55%にとどまる

家庭教育支援に対する関心の有無

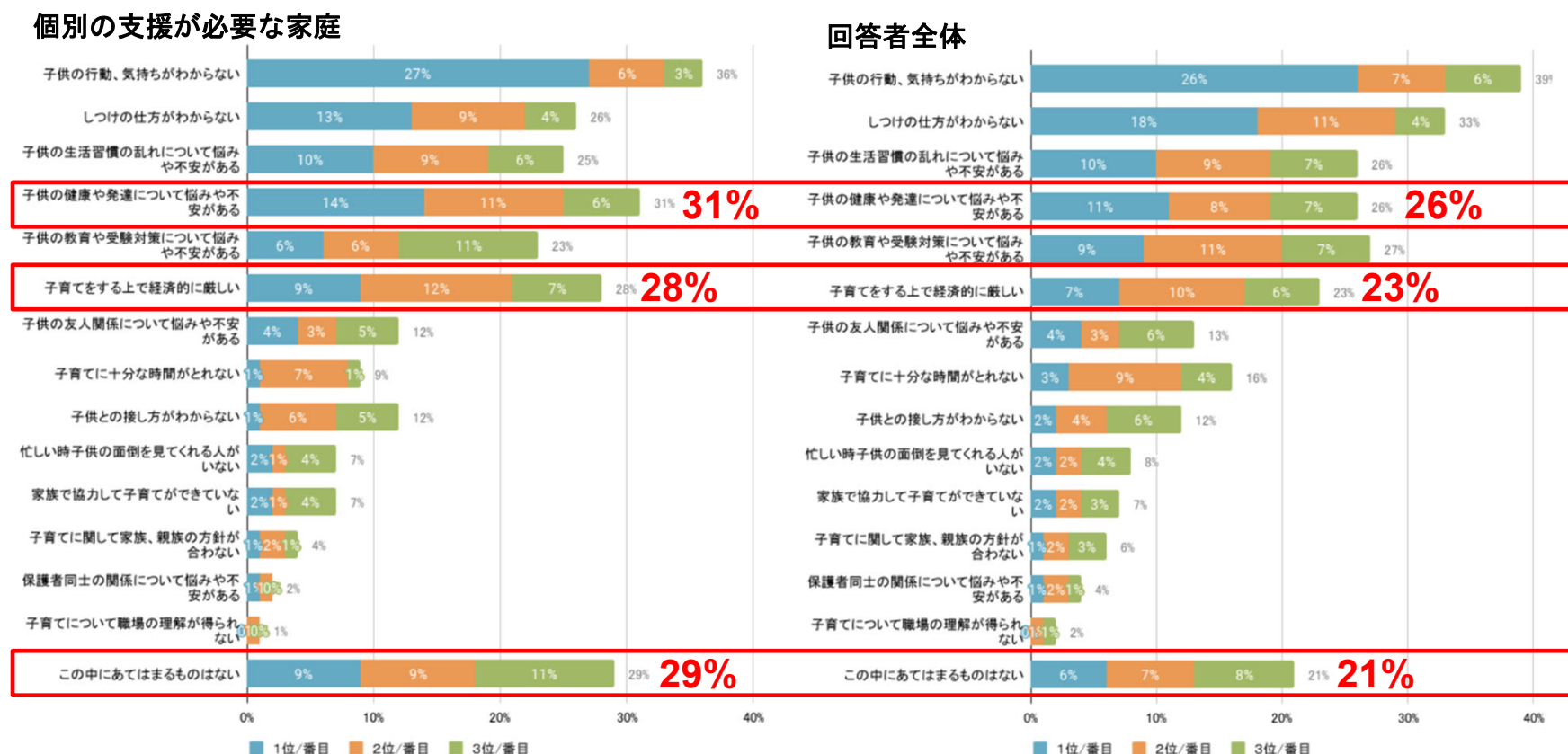
※「個別の支援が必要な家庭」のうち、「内容を含めて知っていた」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」を選択した者を対象にしている(n=83)



「個別の支援が必要な家庭」は一般的に想像されるものではない複雑で深刻な悩みを抱えている可能性がある

関心のある「家庭教育」支援内容と優先順位

※「個別の支援が必要な家庭」のうち、家庭教育支援を受けることに「関心がある」を選択したものを対象にしている(n=46)

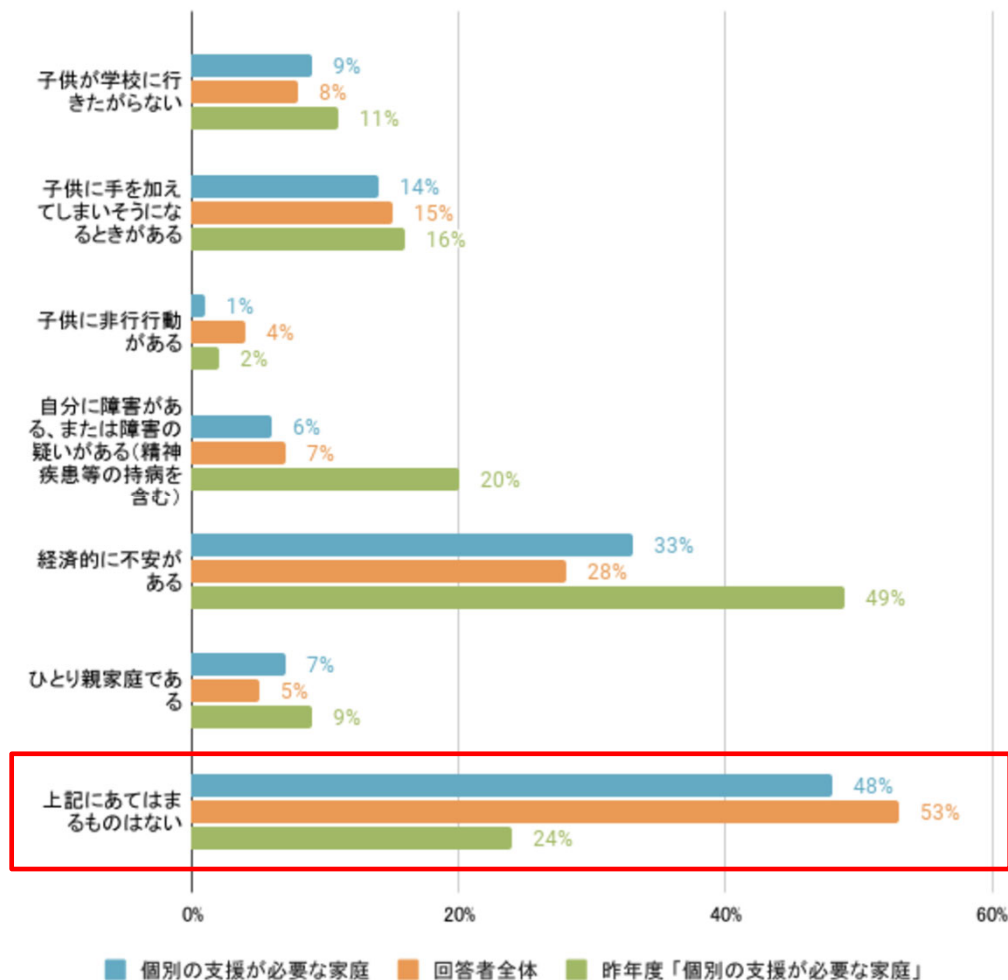


「個別の支援が必要な家庭」は一般的に想像されるものではない複雑で深刻な悩みを抱えている可能性がある

子どもや回答者の状態についてあてはまる
ものがあれば教えてください

※「個別の支援が必要な家庭」全員を対象としている(n=139)

上記に当てはまるものはない
個別の支援が必要な家庭：48%



「個別に支援が必要な家庭」の状況の推察

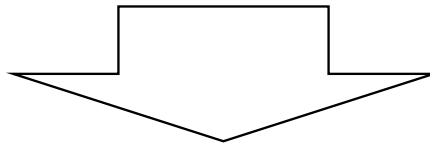
支援情報へのアクセスの難しさ

どのように支援を受ければよいのかわからず、
適切な情報にたどり着きにくい



家庭内の問題の複雑さ・深刻さ

他者に相談しづらい心理的ハードルが存在



「受援力」が低い状態

自分の問題が支援の対象だと認識できず、
支援を受ける力が弱まっている